

じよっぴんワード

教化の現場

教区では現在、真宗同朋会運動の重点施策として「アイヌ民族差別に関する学習会—共なる世界を願って—」の全組実施を進めている。これは、学習資料集発刊を機に始まっているが、これらの取り組みの礎をなした人がある。

藤田光代さん(第4組照願寺衆徒)である(写真中央)。

20代の頃から課題として感じた藤田さんは、アイヌの長老を訪ねたり、道庁に行って資料収集を始めたという。

「あなたは誰だ」から始まった出会いが、足を運ぶごとにアイヌの方々の信頼を得て、現在の教区の学習会のアイヌ民族講師の派遣にまで繋がっている。

その先輩に続けと第4組では3回にわたって「アイヌ民族差別の歴史に学ぶフィールドワーク研修会」が行われている。

机上の学習だけではなく、北海御廟の知里真志保氏(アイヌ言語学文学博士)墓標や強制移住で命を落とした樺太アイヌの墓を訪ねるフィールドワークの内容がいい。足を使い、人を訪ねた先輩の学びが活かされている。

教区で推進している「アイヌ民族差別に関する学習会」が各組で実施され、その波及として更に工夫を加えて学習が継続されることが願われるなか、第4組の学習の内容は今後の取り組みの「礎」となる。今後は組間の交流も図ってみたい。



本欄は、組や寺院、別院などの教化の現場での取り組みを、教務所教化パートの眼からご紹介します。

宗的差別意識を温存する「閉鎖性」ということであろう。さらに「私共宗門人としては、『仏法と歴史社会の問題』に、教学的にも、実践的にも不明瞭であることを率直に承認し、そこには大変困難な問題があることを認識して、それ故に現代社会の差別構造を徹底的に学び、親鸞の真意を回復して、真宗の信心が平等な人間関係を生産する力としてはたらく様に歩みを進めねばならぬと痛感致します」としている。師は、この同朋会運動を推進するにあたり、「教化者意識に立つな」と言い続け、自戒してきたのであったが、教団が持つ、僧侶と在家を区別し、僧侶は教法を知る

ものであり、門徒を在家と呼び、その人々を教化するものという差別体質を、実は自身が無自覚的な指導者意識として内に抱えていたことを懺悔し、しかも、その教化者意識に立った差別体質を克服していくことの困難さを示し、同時に、人間はどこまでも社会的存在であり、自己の観念性を破り、現代社会の中にあつて真実の自己を検証すべき自身が、社会から遊離していたという事実を自覚として受けていかれ、私たちに身をもって教示された自己批判であろう。訓覇信雄師は常々「同朋会運動は大学や研究所から生まれたものではない。少なくとも何がしかの実践をとおして生まれてきたもの

である」と言われていたという。真人社運動から宗門体質改革を眼目とした宗祖七百回御遠忌という大きな動きの中から生み出された同朋会運動であるがゆえに、最も重大な問題を見落して来たということとは否めない事実である。しかし、同朋会運動を推し進めてきたからこそ、部落差別問題そして、相違とするがアイヌ民族差別問題にある人間が人間を差別するという根本を共通する、人間の深層にある問題が教団の本質的課題となつたと言えるのではないだろうか。

- ・部落問題学習資料集 参照
- ・昭和44年大谷派同和会から訓覇内局に提出された建議書 参照
- ・訓覇信雄論集 参照



完成した屋根とこれから修復される屋根を真近に見て、皆感嘆の声をあげました

▼一日参拝
10/6
第16組瑞寶寺

17名

御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」
教区御遠忌テーマ「あなたは、与えられたいのちとどう向き合う？」

教化本部通信

【第63回】

真宗門徒の生活を回復しよう 朝夕におつとめをしましょう・声にだしてお念仏を申しましょう
すずんでお寺の法座に身を運びましょう・報恩講を大切にお迎えしましょう

しんらんweb 検索 ほほ毎日更新中

真宗同朋会運動50年に向けて

その検証 歩み(十二)

大谷派における差別事件 (4)

教化本部 古卿 誠幸

心と部落問題が別々のことである様に宗門人が語るとすれば大問題であります。

それにも拘わらず、何故、私がこの様な表現をしたのか。一言で言えば、私自身の閉鎖性であります。

これは、難波別院輪番差別事件の発生時に、大谷派同和会(真宗大谷派同和委員会昭和45年改称、同年強制解散、同和对策協議会設置)から訓覇内局に提出された建議書に指摘されてある、真宗教団再生の理念と、人間疎外よりの回復、人間尊厳の確立は祖師の信仰によつて立つしかないという反省から同朋会運動が展開されてきたが、発足に当たり、教団史の検証が十分に行われないうまま運動が進められてきたことは事実であり、そのまま教団内の実情は非真宗的であり長年の積弊のなかに現実を直視してこなかったという、基本的認識と問題意識を欠いた、反真



教区の青壮年と共に上山しました。座談会は各々の課題を確認した大切な場となりました

▼奉仕団
10/9-10
青壮年真宗本廟奉仕団

14名



11月16日に本山の釣鐘が交換された日。新しい御影堂に大変感動しました

11/16-17
第4組観蓮寺奉仕団

19名

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌 お待ち受け総上山